

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名	グループホーム よしの
日付	平成18年3月31日
	特定非営利活動法人
評価機関名	ライフサポート
評価調査員	在宅介護経験15年
評価調査員	老人保健施設相談員、介護支援 専門員、厚生労働省認知症介護指導者
自主評価結果を見る	(まだリンク先はありません)
評価項目の内容を見る	
事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)	

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	<p>グループホームとしてめざしているものは何か</p> <p>このグループホームの仕事のウエイトづけを評価項目から尋ねた。生活支援の面で見ると、「コミュニケーションと利用者のスペース」は当然だろうが、「排泄のプライバシー、睡眠の支援、医療支援、健康管理、異状処置、服薬の支援」だった。オーナーが薬局経営ということからだろうかと思った。</p> <p>また、グループホームが誕生して1年にも満たないので、代表者も現場のホーム長や計画作成担当者も色々と模索中だと思う。職員全体も不慣れな事もあると思うが、早くグループホームのケアやサービスに対する方向性をしっかりと確立していってくれるものと期待する。</p>		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	<p>入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か</p> <p>玄関も裏口も施錠せず、屋外への出入りも開放されていて、利用者にも開放感がありストレスが少なく良い。家族も出入りしやすい。</p> <p>リビングルームは広く、食卓テーブルが横に伸びており、このテーブルが全員のコミュニケーションの場である。この横に一段と高い8畳間の和室があり、炬燵は昼寝の絶好の場所となっており、男性が気持ち良く寝ていた。</p>		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人で行えることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

外部評価の結果

講評
<p>全体を通して(特に良いと思われる点など)</p> <p>宮本武蔵の生誕地に近い田園地帯の広々とした敷地に、2つのユニットの豪華で、この地にふさわしい平屋建てのグループホームがある。新築のホームはバリアフリーの造りを想像するが、この地域で住み慣れた人を迎える玄関は、幅広い式台のある上り框と木の腰板が張り巡らしてあるホールである。そして床も高く、近代的感觉と日本住宅の特徴をうまく調和させた設計である。庭も広く、両ユニットの居室の近くにある裏戸から直接庭に出られる。</p> <p>利用者にとっては、今まで住んできた雰囲気を感じながらの生活を楽しむことができるだろう。勿論歩行の不自由な人のためには、スロープの設備も設置されている。各居室は3畳の座の間と6畳弱の板間があり、一間の押込みもある。そして木製のベッドと整理ダンスが備え付けられていて、住みやすい部屋となっている。このスペースをうまく使うと快適な生活ができるだろう。</p> <p>このような建物の居室の造りのせいか、利用者は自分の部屋で過ごす人が多い。朝のあやつ後は、皆でテレビ体操で身体をほぐして、少し昼食の準備を手伝うが、食事の時以外は、部屋で自分のしたいことをしたり、仲の良い友達と話しをする人もいるようだ。</p> <p>バレンタインデーには、女性がチョコレートを作り、男性陣にプレゼントした。ホワイトデーには逆に男性陣が女性にお返しをしたそうで、中々粋な事をするものだ。男性と女性の数もバランスしていて、微笑ましい。</p> <p>春になると自生する山菜料理も楽しみだろう。</p>
<p>特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした</p> <p>利用者が居室で過ごしていることが多いように感じる。自分のペースで穏やかに生活する事も大切であるが、皆と一緒に楽しく暮らす事も重要だと思う。リビングルームや庭で過ごすためには、そこに来たら楽しいと感じられる雰囲気やコミュニケーションづくりが必要と思うので、この仕掛けは職員がづくらなければならないと考える。</p> <p>9人が一緒に生活するというユニットの意味を考えてみて欲しい。この単位の楽しみの一つは、皆で作って、一緒に食べるという食事にあるのではなからうか。効率より仲間づくりを考えてみて欲しい。</p>

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	<p>一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か</p> <p>利用者の声かけや関わり方は、やさしく小さな声で行っており、好感が持てた。</p> <p>利用者のアセスメントや介護計画の作る過程は、よく研究して要領よく記録していることがよく分かった。しかし、もう少し計画と日常生活の全体の流れがよく理解できるようにするための工夫は今後期待したい。</p> <p>「代替ケア立案ノート」があり、利用者のQOL向上のために職員が自分なりに考えるケアの方法があれば、このノートに記入していき、他の職員の意見も付加されてホームケアを決めていく。グループホームの生活や認知症ケアについて、職員間でよく研究し、利用者がリビングルームで多く過せる環境を考えて欲しい。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	<p>サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。</p> <p>利用者を取り巻く建物、庭、菜園などのハードな面は申し分ないので、利用者がこのハード面をどのように活用して、自分の生活をしていけるかは、代表者、ホーム長、職員全体の成長あるのみと考える。</p> <p>社長もよく来て、利用者ともコミュニケーションをとっているし、ホーム長や職員と話し合っているのだから期待する。認知症ケアの基本は、あくまでも「人間」であることを肝に銘じ、利用者同士と職員との心の交流をどのようにしていくかが一歩だろうと思う。</p> <p>周辺の小学校の生徒が来てくれ、水戸黄門の寸劇をしてくれた。そして来訪した結果をノートにまとめてくれたものを見ると、素晴らしい地域との交流が始まっている。これを大切にして、地域との交流をますます活発にしていってほしい。</p>		